学校番号	３２８

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	『日本史Ｂ』新訂版　（実教出版）						
副教材等	『最新日本史図表』五訂版　（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

教科目標に「諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察」とあり、資料活用の観点と合わせて、同じ地理歴史科の世界史・地理との関連も重視されている。世界史との関連付けにおいては、各時代における我が国と諸外国との政治的、経済的、文化的な接触・交流が、我が国の歴史と文化の展開にどのような作用を及ぼしたかを考察する必要があり、地理との関連づけにおいては、歴史上の出来事の舞台となった諸地域について地図帳や地形図の活用を図りながら学習させるなど、多面的・多角的に考察することが求められている。また、地域の文化遺産や、博物館・資料館の調査・見学などを取り入れることで、教室外という空間的広がりや、高校での学習以降も我が国の歴史に触れる時間的な広がりを持たせることも可能である。

これらの技能的内容項目は特別な学習時間を設けるのではなく、通史的内容の学習の中で、こうした技能の育成を段階的に進めていくという点に留意する必要がある。これを踏まえて、単に歴史を「暗記もの」として考えず、授業で得た知識を未来社会形成の一与としてほしい。

２　学習の到達目標

・３年次では近代・現代を学習する。
・２年次で学んだ「日本史についての基本的な知識」と「資料等を活用し、歴史を読み取る技能」を応用する。
・日本の歴史を世界史的視野の中でとらえる。
・社会の変化や課題について歴史的な見方・考え方に基づいて考察し、科学的な歴史認識を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	自分が国際社会の一員であることを自覚し、日本の歴史的課題を意欲的に追求する姿勢。	世界史的視野の中で日本の歴史的課題について、科学的な見方・考え方に基づいて考え、それを文章や発表の形で表現する。	歴史的課題について、史料・地図等から情報を正しく読み取り、活用する力。	日本史の展開について、時代ごとに、あるいは主題ごとに理解するための知識。

評価方法	「授業中の様子」 「提出物の点検」など	「考査の論述問題」 「小レポート」など	「考査の史料問題」 「考査の地図、図版問題」など	「考査の知識問題」 「小テスト」など
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	九章　近代への転換	9章　近代への転換 1. 開国	○	○	○	○	a: ペリー来航による日本の開国に関心をもち、鎖国政策の転換と自由貿易の始まりについて意欲的に課題を追究しようとしている。 b: 日米和親条約と日米修好通商条約の締結された意義を考察し、新たに始まった自由貿易が社会にもたらした影響について自らの言葉で適切に表現している。 c: 貿易の開始とその影響について、開港後の物価の急騰や輸出入の推移をめぐるグラフから情報を適切に読み取っている。 d: 列強のアジア進出を受けて日本が開国にいたった経緯を理解し、通商条約の不平等な規定や貿易による国内の混乱に関する基本的な知識を身に付けている。	定期テスト(資料の読み取り) レポート課題 史資料の読み取り 学習の振り返り

		2. 明治維新	○	○	○	○	a:倒幕から明治新政府樹立までの展開過程を理解するとともに、新政府の基本政策の特徴を適切に理解しようとしている。 ｂ:集権化の達成について関心を持ち、その後の日本の制度に及ぼした影響を自らの言葉で適切に表現している。 c：明治維新の時間的流れを見ながら、各史料文の内容を忠実に読み取っている。 d：明治政府成立の過程と各知識に関する基本的知識を身につけている。	
		3.四民平等と富国強兵	○	○	○	○	a: 維新の三大改革としての教育・徴兵・地租改正の目的について理解し、それぞれの政策に関する基本的な知識を身に付けようとしている。 b: 新たな教育制度や徴兵制の施行、地租改正の実行などに対して民衆の反発がおこった背景を考察し、その理由を自らの言葉で適切に表現している。 c:四民平等と民権運動の動きについて、各種の資料を基に内容を適切に読み取っている。 d：貨幣・金融制度の整備や殖産興業の政策実施によって、近代日本の経済育成がどのように図られたかを理解している。	

		4.初期の外交と国内政治	○	○	○	○	a:岩倉使節団の海外視察について関心をもち、明治初期の国際情勢について意欲的に課題を追究しようとしている。 b:自由民権運動がどのように広まったかを理解するとともに、社会にもたらした影響について自らの言葉で適切に表現している。 ｃ:明治初期の外交と国境の画定について、地図資料から必要な情報を適切に読み取っている。 d：内外の状況を見ながら、当時の政府がどのように製作を進めていったかについて、基本的な知識を身につけている。	
		5.文明開化	○	○	○	○	a:文明開化は暮らしをどのように変えたかについて、意欲的に課題を追究しようとしている。 b:教育の普及によって近代化がどのように進められていったかを自らの言葉で適切に表現している。 C：西洋文明がどのように入ってきたかについて、当時の写真や錦絵などから、その特色を読み取っている。 d：新しい文明の流入について理解するとともに、生活技術に関する基本的な知識を身につけている。	

	十章　近代国家の形成	1.民権運動の展開	○	○	○	○	a:民権運動と政党政治の展開について、意欲的に課題を追究しようとしている。 b:民権運動が盛んになった背景について考察し、当時の経済政策との関係について自らの表現で適切に表している。 c:民権運動が激化する要因を、当時の経済データなどを読み解いている。 d:次の立憲政治に向けての動きに関して基本的な知識を身につけている。	
		2.立憲政治への道	○	○	○	○	a:海外における明治憲法の評価に関心を持ち、憲法制定過程について意欲的に課題を追究しようとしている。 b: 憲法や諸法典が作られていく背景を考察し、当時の政治に対する民衆と政府の関係を自らの表現で適切に表している。 c:地方制度を含めた行政組織について資料・図表を適切に読み取っている。 d:立憲政治に至るまでの過程について、基本的な知識を身につけている。	
		3.初期議会と日清戦争	○	○	○	○	a:初期議会の動向や日清戦争の過程について意欲的に課題を追究しようとしている。 b：日清戦争が勃発した背景を考察し、朝鮮をめぐる日本と清の関係について自らの言葉で適切に表現している。 C:当時の外交文書や政治家・知識人の文書資料を基に、国家の動きを示す内容を適切に読み取っている。 d: 日清戦争の勃発から展開、結果についての動向を東アジア情勢の推移のなかで理解し、日清戦争後の議会の動向に関する基本的な知識を身に付けている。	

		4.政党の進出と日露戦争	○	○	○	○	a:政党内閣が成立する過程に関心を持ち、日露戦争が起こった背景について意欲的に課題を追究しようとしている。 b:英国主義と日露戦争について考察し、朝鮮・満州における利権をめぐって日露の対立がおこったことについて、自らの言葉で適切に表現している。 c: 地図資料を活用して、日清戦争後の中国分割について各国の勢力範囲などを適切に読み取っている。 d: 列強の中国進出から日露戦争にいたる動向を理解し、日本による韓国の植民地化について基本的な知識を身に付けている。	
		5.産業革命と社会の変化	○	○	○	○	a: 過酷な労働条件で働いた女性たちの存在に関心をもち、日本における産業革命の進展について意欲的に課題を追究しようとしている。 b: 日本において資本主義が発達した背景を考察し、紡績業や製糸業の発達について自らの言葉で適切に表現している。 c: 資本主義的な生産の発展を示すものとして、綿糸紡績業の発達をグラフから読み取り、他方で高まった労働争議の推移についてもグラフから適切に読み取っている。 d: 軽工業を中心に発達した日本の資本主義について理解し、その一方で深刻化した社会問題について基本的な知識を身に付けている。	

2		6.近代文化の形成と展開	○	○	○	○	a：西洋的な生活文化の普及に関心をもち、国民的性格をもつ近代文化の発達について意欲的に課題を追究しようとしている。 b：文学や芸術の面における新たな動きについて考察を加え、伝統文化のうえに欧米文化を取り入れている点について自らの言葉で適切に表現している。 c：西洋の教育制度が普及した様子について、当時のカリキュラムから情報を適切に読み取っている。 d：近代文学の発達や近代芸術の展開について理解するとともに、生活文化に関する基本的な知識を身に付けている。	
	十一章　両大戦間の日本と市民文化	1.第一次世界大戦	○	○	○	○	a：第一次護憲運動で国会をとりまく民衆の姿に関心をもち、日露戦争後の政治の動向について意欲的に課題を追究しようとしている。 b：第一次世界大戦が日本に与えた影響を考察し、中国進出の動きや日本経済の発展について自らの言葉で表現している。 c：第一次世界大戦中の日本経済の発展について、産業構造の変化のグラフからその特色を読み取っている。 d：桂園時代の展開から護憲運動を経て政党内閣が成立する経緯を理解し、第一次世界大戦中の日本の動向に関する基本的な知識を身につけている。	

		2.大戦後の内外環境	○	○	○	○	a: 関東大震災がもたらした被害に関心をもち、都市の復興と大衆文化の広がりについて意欲的に課題を追究しようとしている。 b: 大衆文化が広がった背景を考察し、大正期における都市化の進展について自らの言葉で適切に表現している。 c: 大正期の学問と教育の発展をめぐって、教育制度を示した図やマスコミの発達状況を表したグラフから情報を適切に読み取っている。 d: 第一次世界大戦後の国際秩序や東アジアにおけるワシントン体制の特色を理解し、国内におけるデモクラシーの動向に関する基本的な知識を身に付けている。	
		3.政党政治の展開	○	○	○	○	a: 戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、背景となる関東大震災・金解禁・世界恐慌との関連を含めて理解できている。 b: 無産政党の誕生など社会主義運動が高まる中、山東出兵や統帥権干犯問題など軍部の政治的進出を背景に協調外交から積極外交へと転換していく過程を考察できている。 c:田中義一内閣の中国に対する強硬姿勢と、中国国内の北伐の様子を、地図を活用しながら読み取っている。 d: 昭和初期の恐慌が深刻化するなかで対中国政策が強硬なものに転じていく経緯を理解し、基本的な知識を身に付けている。	

		4.市民文化の展開	○	○	○	○	a:デモクラシー思想の成立に関心を持ち、意欲的に課題を追究しようとしている。 b:デモクラシーと文芸が連関する背景を考察し、自らの言葉で適切に表現している。 c:写真や図版から、当時の芸術がどのように表現されているかを適切に読み取っている。 d:学術の発展や文学・芸術の展開について基本的な知識を身につけている。	
	十二章　十五年戦争と日本	1.満州事変	○	○	○	○	a:満州事変と軍国主義の進展に関して意欲的に課題を追究しようとしている。 b: 満州事変が計画された背景を考察し、日本における恐慌の深刻化と社会不安について自らの言葉で適切に表現している。 c: 昭和初期の日中関係を理解するために 1920 年代の中国情勢を示す地図や満州事変の要図を活用して、必要な情報を適切に読み取っている。 d: 満州事変以後の政治や外交に関する基本的な知識を身に付けている。	
3		2.日中戦争	○	○	○	○	a:二・二六事件から日中戦争に至るまでの変遷に関して意欲的に課題を追究しようとしている。 b: 三国軍事同盟が締結された背景を考察し、戦時下にむかう経緯を自らの言葉で適切に表現している。 c:第二次世界大戦前後の国際関係について、図版や写真を読み解いている。 d:太平洋戦争に向かう流れについて、基本的な知識を身に付けている。	

		3.アジア・太平洋戦争	○	○	○	○	a: 沖縄戦で多くの非戦闘員が犠牲になった悲劇に関心をもち、そのような惨状を生んだ太平洋戦争の勃発から終結にいたる経緯について意欲的に課題を追究しようとしている。 b: 「大東亜共栄圏」に組みこまれた人々が抵抗した背景を考察し、日本が太平洋戦争に突入した経緯について自らの言葉で適切に表現している。 c: 太平洋戦争の推移について関連地図から情報を適切に読み取り、戦局の悪化にともなって窮迫した国民生活について写真資料などから情報を読み取っている。 d: 日米交渉の失敗から太平洋戦争が勃発した経緯を理解し、戦争の実態や国民生活の窮迫、敗戦への道について基本的な知識を身に付けている。	
	十三章 現代の日本と新しい文化	1. 占領と民主政策	○	○	○	○	a:占領政策と民主化について、基本的な知識を得ようとしている。 b：民主化政策の内容と経過について自らの言葉で適切に表現している。 c：戦後の諸改革に関する図版や写真資料などから情報を読み取っている。 d：戦後諸改革や日本国憲法制定の意義について、基本的な知識を身につけている。	

		2.サンフランシスコ講和会議と安保体制	○	○	○	○	a:冷戦の本格化が進む中、世界情勢の変化について基本的な知識を得ようとしている。 b：冷戦が起こった背景について、自らの言葉で適切に表現している。 c：戦後の国際体制について、図版や写真資料から内容を適切に読み取っている。 d：戦後の日米関係・日米安保体制の意味を理解している。	
		3. 高度経済成長下の日本	○	○	○	○	a. 戦後の復興から高度経済成長についての基本的事項を理解しようとしている。 b：朝鮮戦争の特需による経済復興とその後の経済成長について考察し、公害等の発生にもつながっていることを自らの表現で適切に表現している。 c:企業の成長と公害の実情を示す資料などについて、内容を適切に読み取っている。 d：高度成長の経緯と終焉について、公害などの社会問題や大衆文化の変化を踏まえて理解している。また沖縄の基地問題についても確認できている。	
		4. 経済大国日本と国民生活	○	○	○	○	a:石油危機と 55 年体制の崩壊について、基本的な知識を身につけようとしている。 b：高度経済成長の終焉と行政改革の進展、日本経済の緩やかな成長と貿易摩擦の激化についてその理由を自らの言葉で適切に表現している。 c：経済状況の変化や政局の変動などについて、図版や写真資料から内容を適切に読み取っている。 d：日本国内における政治・経済の動向を、国際情勢の変化をふまえて理解している。	

		5. 世界史の転換と日本	○	○	○	○	a：冷戦の終結と国際状況の変化の意義について理解し、それに関する基本的な知識を身につけようとしている。 b：世界情勢の変化とそれに伴う国内状況の変化を考察し、変化の理由を自らの言葉で適切に表現している。 c：世界の紛争や国内の諸問題についての各種資料に目を通し、状況を適切に読み取っている。 d：冷戦体制崩壊後の国際情勢の変化を、日本の政治・外交・経済・生活文化面をふまえて理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。